

令和元年度 自己評価及び学校関係者評価書

1 本年度の重点目標

『豊かな人間性を培う』 ・ 学ぶ力の育成 ・ 豊かな心の育成 ・ 健やかな身体の育成 ・ 信頼される学校の創造

2 本年度の教育推進の重点

- 基礎学力向上に向けて
- 豊かな心の育成(道徳を中心に豊かな心を育むために)
- 健やかな体の育成
- 子どもの発達の支援
- 信頼される学校の創造(開かれた学校をめざして)

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	基礎学力向上にむけて	A	各教科のねらいに応じて様々な授業形態を試み、意見交流を通して相互が高まる授業の工夫・改善を図る。取組を継続することで、細かいステップを踏んで理解を深めていく。	A	A
	豊かな心の育成	B	道徳授業時数の確保・授業記録と評価方法・教科書の活用などについての研修と理解に基づき、工夫された授業づくりを行う。日常指導の中でも道徳性の育成に努める。	A	A
	健やかな体の育成	A	保健体育の授業のみならず、体育的行事の実施や部活動、食指導を通して、自ら進んで心身の健康を保持増進しようとする生徒の育成をはかる。成果の確認と継続に心がける。	A	A
	子どもの発達の支援	B	学年・学級・校内学びの支援委員会の組織的支援活動を継続するとともに、スクールカウンセラーや相談支援センター、学びのパートナー、養護教諭との連携を継続し、一層強化していく。	A	A
	信頼される学校の創造	A	学校、学年だより、HPによる積極的な情報発信の質的向上を図る。また、地域ぐるみの子どもの育成という観点から、地域行事への協力や巡視活動などで協力体制につなげたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> 適正に分析された自己評価だと思います。 ・石山地区らしく地域と共に進んでいると感ずる。 目標達成に向けて取り組んでおり、今後も継続して取り組んでほしい。 学校・学年だより・HPの他にもメールの活用をお願いしたいです。 不登校傾向生徒に対し、スクールカウンセラーを増やす体制を考えてほしい。 学習面だけでなく、子どもたちの心の部分に寄り添ったサポートを今後も続けていただきたい。また、HPの発信など積極的に行われており、開かれた学校づくりが行われているのを感じる。 			
学習指導	基礎基本の定着を図るための指導方法の工夫	A	生徒が意欲をもって取り組める授業になるよう、教科研修と指導方法の工夫をはかる。また、各学年の日常的な取組により、基礎基本の定着と望ましい学習習慣の確立をはかる。	A	A
	学習習慣の確立に努める	A	生徒が学習に意欲的に取り組めるよう、日常の課題や長期休業期間の課題の工夫に努め、学習習慣の確立を図る。自分で学習の見通しをもち、主体的に学べる授業の構築を図る。	A	A
	補充学習などを通じた、学習支援体制の確立	A	これまで通り、放課後に学習相談日を設け、定期テスト前の補充学習の充実を図り、長期休業中の講習なども行い、全校体制で、個別の学習支援体制の確立とその充実を努める。	A	A
	TT授業、少人数指導のさらなる充実による基礎学力の定着	B	個に応じた指導方法の改善を図り、学力向上と基礎基本の定着を目指す。また、学びのサポーターなどの人材も活用や個別指導などにより、きめ細やかな指導を行う。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果では成績が伸び悩んでいる様子がありますが、それは向上心に裏打ちされたものと思われま。向上心が強いことは素晴らしいと思われま。 家庭学習習慣に関して、保護者と生徒の間に認識のずれがあり、今後は試験前だけでなく、日頃より家庭学習の改善につながる指導を期待したい。 差はみられるが、先生方が子どもに向き合い指導されていると思う。 生徒が興味をもち、個に応じたわかりやすい授業、TT、少人数指導など今後も続けていただきたい。 			
生活指導	道徳の時間の充実	B	「特別の教科 道徳」の授業充実を図るため、「教科書」の効果的活用を図る。さらに、発達段階に応じて計画的に「考え、議論する道徳」の授業を行い、評価研修を継続する。	A	A
	朝の読書の通年実施	A	「朝の読書」の実施は、落ち着いた雰囲気の中で、豊かな心を育成し、スムーズな授業の導入に効果が大きかった。短時間ながらけじめをもって実施し、継続的に行っていく。	A	A
	学校外部の方を講師としてお招きしての授業や講演会の実施	A	外部の方を積極的に講師としてお招きすることで、学校とは違った価値観や視点でお話をしていただき、生徒の豊かな心の育成と生き方を学ぶ機会とする。	A	A
	命を大切にす指導の充実およびいじめ防止について	A	日常の学校生活の中で、命を大切にす指導に心がけ、生徒の意識向上を図る。いじめに関するアンケートの実施や教育相談の充実を図る。全職員による生徒観察を継続する。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> 生徒で作る学校祭や合唱コンクールなどに積極的に参加しており、今後も継続してほしいとともに、社会性を育てるために、地域ボランティアなどの積極的な促進を期待したい。 中学生の段階での「考え、議論する道徳」を実行することは難しいと思われま。 奉仕の精神、社会通念、変わりゆく思想に対応するため、指導者の順応も必要だと思われま。 SNS等を利用する子供たちが増えている今、「自ら考え議論する」授業は今後もっと必要になってくると思われま。 			
その他	家庭との連携について	A	学年PTAやPTA運営委員会等の機会に、学校や生徒の情報を発信することにより、家庭との連携を強化する。また、個人懇談での交流や日頃の教育活動を通して信頼関係を高めることにより、相談しやすい環境をつくり、家庭との一層の連携を図る。	A	A
	学校・学年だより、PTA集会などが果たしている役割について	A	普段の学校の様子や行事活動を見ていただけるよう学校公開日を設定する。また、PTA集会では丁寧な説明に努め、ご理解を得られるようにする。さらに今後も学校・学年だよりを継続的に発行する。また、学校HPで学校での教育活動を積極的にアピールする。	A	A
	生徒の積極的な行事参加について	A	学校行事の見直しや改善を図りながら、生徒の人的成長につながるよう実施する。今後も生徒が意欲をもって参加し、生徒個人や集団の向上が図られるよう指導していく。	A	A
	学校における体力向上の取組について	A	体育的行事や部活動では、生徒を心身ともに成長させてきた。今後も、生徒と担当教師との人間的ふれあいを大切にしながら、技能と精神面の向上を目指し継続していきたい。また、食指導に関しては、「和食の良さ」をテーマとして行ってきた。今後も健康相談活動を健康や体力の増進につなげられるよう努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> 工夫されたよい取組が多いと思われま。 心の育成などに気を遣い、学力向上にこのまま向かってほしいです。 保護者の授業参観やPTA活動への参加は、必ずしも十分ではない。保護者の参加意識の向上を図る必要があると思われま。 学校-家庭-地域・個が樹脂される時代なので、難しい問題が山積みであると感じる。 子供たちの成長を感じられる学校行事は、改善、見直しつつ、これからもサポートしていただきたい。また、これからも学校と家庭とのつながりを大事にしていきたい。 			

